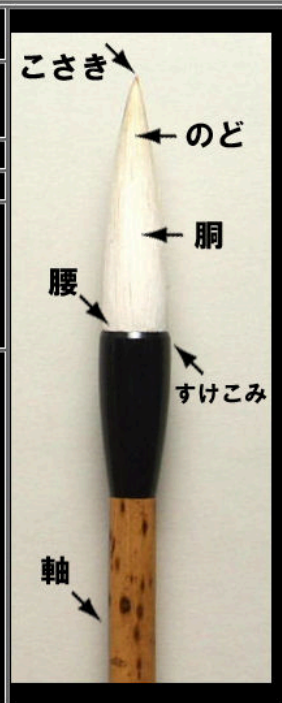


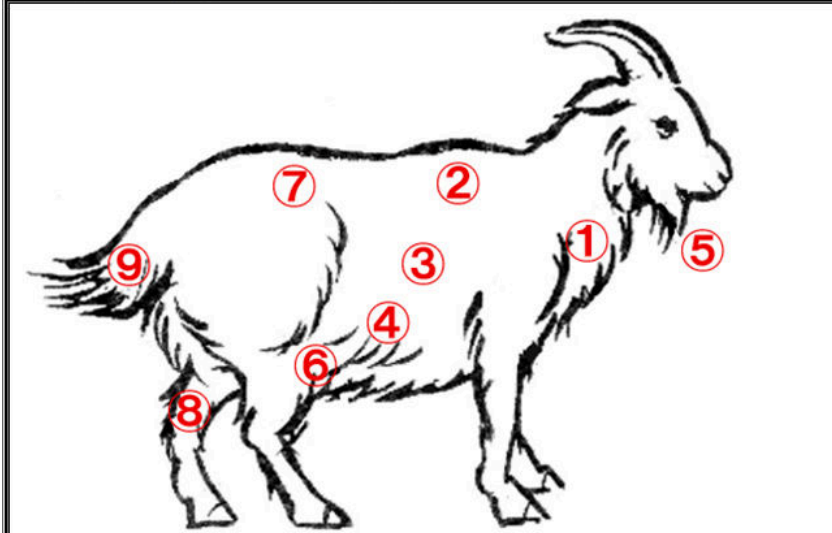
筆の話

筆の主な産地	愛知・奈良・広島、国産の筆を和筆と称し、これに対して中国産の筆を唐筆と呼びます。
穂先の原料	獣毛筆…羊毛・山羊毛・馬毛・鹿毛・狸毛・りす毛・鼬毛・猫毛等 鳥毛筆…鶏毛・鶴毛・孔雀毛等
軸の原料	竹・木・プラスチック等が主になります。
筆の各部の名称	こさき・のど・胴・腰・すげこみ・軸
穂先の形	仕立筆・さばき筆・巻筆の三種があります。 仕立筆(水筆)…穂先を糊でかためてあります。 さばき筆…糊で固めず毛のまま仕上げます。 巻筆…穎鋒の回りを薄書院紙で巻く(今日、ほとんど使用されていません)
毛の剛柔	毛の剛柔によって、剛毛・兼毛・羊毛と呼びます。 剛毛筆…毛質が硬く腰の強い馬毛・りす毛・鼬毛等茶系 用途…学童・初心者向き 兼毛筆…中心に剛毛を使い外側に羊毛を巻いて作った筆、剛毛より腰が弱い。 用途…中級者向き 柔毛筆…羊毛で毛は白色・高級品程「こさき」から「のど」がアメ色をしています。 腰は柔らかく弾力性に富んでいます。 用途…上級者向き



羊毛の話

筆に使われる羊は、中国長江(揚子江)下流地域のごく限られた地方に飼われている食用の特殊な羊で、その数も 非常に少なく、大変な貴重品です。
又、一匹の羊の毛も、雄、雌、部分によって何十種類にもより分けられ、それぞれ性質の異なる筆原料になります。特に細光鋒はなんとも言えないあの書き味の、最高級羊毛筆原料として重宝されている事は、広く知られています。



- ①頭部……………雄羊、細光鋒、粗光鋒、雌羊、直鋒……………毛丈は長く毛筋は細い
- ②背筋部……………細長鋒、長羊毛……………毛丈は長く毛筋は細い
- ③肩部……………白黄尖鋒、黄尖鋒……………毛丈は長く毛筋は粗い
- ④脇部……………蓋尖鋒、白黄、鋒、透爪鋒、脚爪鋒……………毛丈は短く毛筋は細い
- ⑤顎下部……………羊須(ヤンス)……………毛丈は短く毛筋は細く特に先がよい
- ⑥腹部……………脚爪鋒、上爪鋒、粗爪鋒……………毛丈は長いが弾力なし
- ⑦背部・腰部……………棟南鋒、中短鋒、堤短鋒……………毛丈はさらに短い
- ⑧腿部……………脚爪鋒、上爪鋒、粗爪鋒……………毛丈は長く毛筋は粗い
- ⑨尾部……………羊尾(ヤンオ)……………毛丈は長く弾力有り

筆使用後の手入れ方法

太筆

使用後は、穂についている墨を手でもむように水洗いします。特に根元についている墨分をよく洗い落とすことが大切で、これが充分でないと根元に墨だまりができ、ここから墨が腐敗したり、毛が切れたりします。洗筆後は、反故紙などで形を整えながら水分を抜いていきます。保管は風通しのよいところで、つるして乾燥させるのがよいでしょう。

細筆・仮名筆・写経筆・面相筆

墨の含んだところまで水に浸し、反故紙に少し水を含ませたもので墨分をとっていきます。このやり方では墨分が少し残りますが、先のききを活かすため、先の形を崩さないように墨分を取り除いていく工夫が必要なのです。

その他の注意

穂に墨をつけたまま乾燥させてしまった時、次に使用する際になかなか穂先がほぐれません。このような場合には、固形石鹼を手につけてもみほぐします。ただし、穂は石鹼のようなアルカリ性に弱いものですから、通常は水で洗筆するようにしてください。

購入時、穂先についている透明キャップは、一度穂先に墨をつけた後は捨てるようにしましょう。洗筆後、透明キャップをはめ込むと、水分が抜けないので腐敗の原因になったり、キャップで毛をはさみ込んで穂を痛める原因にもなります。

筆を長期にわたって保存する場合は、ナフタリン等防虫剤をいっしょに入れておく必要があります。年に1~2度は虫干をします。特に湿気が多い雨期時にはカビがはえることもありますので、この時に行なうとよいでしょう。